鳥海讃歌

ＧＴＨ通信　第４７号　　令和３年７月１５日（木）
校長室より

全校応援ができる喜び！

　７月１１日（日）第１０３回全国高等学校野球選手権秋田大会に出場した仁賀保高校野球部の皆さん、感動をありがとうございました。尾留川監督の指導のもと、弱点を克服しようと必死になって練習してきた成果が、随所に現れた試合だったと思います。

　３年生７人（内マネージャー１人）、２年生１人、１年生４人という、出場チーム４１校の中で、単独チームとしては最少部員数で甲子園予選に臨みました。３年生は令和元年度、当時部員不足で単独チームを組めずにいた状況を好転させ、学校を活気づけてくれました。令和２年度は、コロナ禍で甲子園大会がなくなり、悔しい思いをしただけに、２回裏の攻撃時に、仁賀保高校の校歌が八橋球場に鳴り響いた時は、感無量でした。

　私は、平成５年に矢島高校に採用され、５年間野球部長を経験しました。責任教師として、選手には、学校を代表する運動部の一員としての礼儀と立ち振る舞いに気をつけ、『野球人』としてのプライドを持ち、一般生徒の模範となるように指導してきました。かつて自分が関わっていた部活動だけに、野球部員の言動や立ち振る舞いには、常に注目してきました。野球部員は、私の姿を見つけると、アイコンタクトを忘れずにあいさつしてくれました。そのたびに、古き良き矢島高校野球部時代を思い出し、仁賀保高校野球部員にエールを送らずにはいられませんでした。

　３年生部員は、入学時に比べ、野球が格段に上手くなっています。皆さんも記憶していると思いますが、センター後方の大飛球を転倒しながらキャッチした選手のプレーは、これまでの練習の賜物なのです。仁賀保高校の部活動が目指すのは、選手１人ひとりが、自分の現状を直視し、努力の末に納得できる成長を遂げることです。必死に白球を追う姿が、スタンドで応援してくれた仲間や教職員、保護者の皆さんに「心が揺さぶられる瞬間」を焼きつけてくれました。３年生のマネージャーにも感謝します。少ない部員が野球に専念できる環境をつくるため、さまざまな場面でサポートしてくれました。部員にとってはとても大きな存在だったと思います。

　全校生徒の皆さん、応援ありがとうございました。吹奏楽部は、少ない人数で、張りのある力強い音色を球場中に響かせて、選手の闘志を後押ししてくれました。３年生の女子生徒、吹奏楽部ＯＧや菅原大志事務長にもトランペットでヘルプしていただき感謝しております。

　コロナ禍での制限により、全校応援に欠かせないエール交換ができなくて残念でしたが、応援団長を中心に、心に残る全校応援ができたと思います。生徒会長自らが、最後まで団旗を持ち続け、対戦相手に敬意を表したことで、仁高生の心意気を示してくれたことに感激しています。教職員の皆さん、各部署が連携して、さまざまなリスクを想定した緻密な応援計画を組んでいただき、誠にありがとうございました。

　全校応援は、生徒が一堂に会する「授業」です。この「授業」に参加した人間のみが、「生きる力」の涵養に結び付くヒントを見いだすことができます。あなたは、とっておきのヒントを発見できたでしょうか。
　「心揺さぶられる瞬間」は今後も、仁高教育活動で待ち受けています。１人ひとりが、今回の体験を基盤に、「感動」を探し続けてください。

★　アイコンタクト（ｉcon ｔ act３）を心がけてください。目と目で通じ合い、face to face で向き合いながら、「考えながら行動する」笑顔の素敵な人間たれ！
★　メモをとる習慣を確立しましょう。生徒手帳をフル活用してください。メモをとる習慣は、将来必ず役に立ちます。
★　意識力＝意思・意志（瞬間）＋気力（持続）です。意識力を育成することで、学ぶ力が増幅します。考えたことを継続してやり抜きましょう。
★　ＧＴＨは、「疑問→探究→発見」という学びの方程式です。
★　「自己有用感」を高めてください。そのためにあなたは何に挑戦しますか?
　自分が誰かの役にたつためには、感謝の心と自己肯定感を持つことが大切です！
★　ＮＰＴは仁賀保高校プログラミング思考の略称です。ＮＰＴを意識して、学びを活性化しましょう。プログラミングは、Trial＆Errorで進めましょう！
★　「自分事」「当事者意識」を持って取り組む仁高生に変身しましょう！